

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770901573		
法人名	医療法人 仁寿会		
事業所名	グループホーム円珠荘 (1)		
所在地	大阪府高槻市北柳川町2番6号		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	平成24年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成23年10月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者がその人らしく過ごしていただけるよう、家庭的な雰囲気づくりをしている。また医療機関と密接に連携を取っており、医療面で充実している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体組織は医療法人で平成15年5月1日に北摂の山並に囲まれた神社仏閣の多い環境に開設された。建物は複合施設で一階は多目的ホール(柔道場)、二階がデイサービス、3階にグループホーム、4階を小規模多機能型居宅介護に併設されている。施設は開設当初から地域交流を最大課題として取り組み、地域の公民館で「認知症について、メタボ・骨粗しょう症」等の介護と医療面の講演開催や独居老人の見守りなど、積極的に地域住民との交流に努めている。利用者はゆったりと落ち着いた雰囲気の中で、天気の良い日には周辺の散歩や買い物、外食、花見、そして筋力低下予防の機能訓練など、活動的でメリハリのある一日を過ごしている。施設から五分の所に協力医療機関があり、医療連携が密にとれ、急変時の対応も即とれるので、本人と家族にとって心強く、安心感がある。

shou

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域活動への参加を基本理念とし、入所前の生活を継続して頂けるように実践している。	事業所の開設当初から地域との関係は良好である。管理者と職員は地域密着型サービスの意義と役割は理解し、利用者が地域の中で安心して暮らせるように取り組んでいるが事業所独自の理念は作り上げていない。	地域密着型サービスとして、サービスを提供する上で、何が大切かを話し合い、事業所の現状にあった独自の理念を、作りあげることが求められます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会主催のイベント等に積極的に参加し、また施設主催のイベントにも地域の方々にご参加頂いている。	地域の夏祭り、小学校の運動会、施設主催の花火大会、敬老会で小学生の慰問、職員による地域の独居老人の見守り、地域のボランティアの受け入れ等、地域住民との連携及び協力に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方々にご出席頂き、認知症について話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日常の支援などについて報告し、御家族様のご意見などを積極的に取り入れ、サービス向上に努めている。	会議は自治会長、地域包括支援センター、家族、職員の参加で開催している。事業所から近況報告、行事、イベント計画の報告が行われ、質疑応答で双方向的な会議が行われている。年6回の会議開催には至っていない。。	運営推進会議は外部の人から率直な意見、要望が聞けたり、また事業所の取り組みや内容を理解してもらる貴重な機会でもある。年6回の会議実施に向けて取り組まれる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高槻市役所とは密に連絡を取っており、随時連絡相談等をしている。	高槻市介護保険課には、日頃から業務の手続きや運営の相談などを気軽に相談して、親切なアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で身体拘束についての研修を行い、施設全体で身体拘束のないケアに取り組んでいる。	日常生活の中で危険や、緊急やむを得ない場合は、医師の許可を受け、その理由を家族へ口頭で説明して経過記録表に記録している。ユニット入り口は鍵が掛かっているが居室からベランダへの出入りは自由である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で高齢者虐待についての研修を行い、施設全体にて虐待については、細心の注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、幾度か経験する機会があったが、権利擁護に関する研修等はまだ行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者が契約書、重要事項説明書を読みあげ、ご家族が内容を理解し納得できるまで時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時に入居者の様子を報告し、ご家族の意見や要望はミーティング等で全スタッフに伝え、業務に反映できるようにしている。	家族の訪問時や運営推進会では、家族から「スタッフ増員、夕食は職員の調理でお願いしたい」等、率直な家族の意見・要望は出されている。、出された意見、要望は前向きに検討するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員ではないが、必要に応じ個別に面談を行い、職員の意見や提案を聞いている。	ミーティングや毎日の申し送りの時に職員の意見、提案を聞くようにしている。個別の場合は随時、必要に応じて管理者が聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不足により偏った勤務状況があった場合は早急にスタッフの確保に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が介護技術、接遇に関して向上心を持って取り組めるよう、研修を受けることを奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後、同業者との交流の機会を持ち、刺激を受けながら介護の質を向上できるよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に理解しやすい言葉でゆっくりと丁寧に納得していただけるまで話をするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴するとを基本にし、ご家族から信頼いただけるような関係をつくるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応では、できるだけ家族と本人の話を聞き、情報を集め、何が重要で必要な支援かを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の意思決定と自立支援を優先し、利用者にとって必要な部分を援助するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との面会は利用者の個室にてゆっくり話ができるよう配慮し、あとで職員からは、ご家族に生活状況の報告をする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人が面会に来られたら快く迎え、楽しい時間が過ごせるよう配慮している。	併設のディサービスに来られた知人や友人が遊びに来られ楽しい時間を過ごしている。近くの神社・お寺の散歩やスーパーへの買い物、美容室、箕面の温泉など馴染みの場所への外出支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でゲームをしたり話をするができる環境づくりを考え、孤立する方がいたら職員がフォローします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後こちらから訪問することは減多にありませんが、入院されている方はお見舞いに行きますし、退院後の受け入れ先については、フォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り、利用者本人の気持ちを大切にし、意向をくみ取る。日頃から心を開いて話をしてもらえ職員となるよう心がけている。	日頃からコミュニケーションを密にとり、本人の意向や希望を聞き取れるように努めている。困難な場合は一緒に暮らしている中で表情や行動から思いを汲み取れるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションを大切に、毎日のかかわりの中で、これまで過ごされてきた人生を知り、その人を理解できるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調を知り、心身の状態を把握し、一日の過ごし方は利用者と一緒に話し合っ決めていくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員でケアカンファレンスを行い、利用者のためのより良い個別ケアを検討している。	6ヶ月一回の見直しをしている。カンファレンスで職員全員の声を参考にして計画作成担当者が主になって作成している。計画作成後は家族が来訪された時に説明をしている。来られない家族には電話で説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤と夜勤の申し送りは朝と夕方、各10～15分間、記録に基づいてできるだけ詳しく行い情報を共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の過ごし方は、特に決まったプログラムに沿ったものではなく、その日の利用者の状況を見て決めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの喫茶店、飲食店、医療機関などへ行くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に密に連絡を取れるようにしており、利用者の状況を常に報告し、指示を受けられる体制にしている。	入居前にこれまでのかかりつけ医を継続できることを説明しているが、入居後は近くの協力医療機関への移行を希望されている。職員に看護師が居られるので健康管理には安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や気付きは常に看護師に報告し、指示を受けるようにしている。また看護師はかかりつけ医と密に連絡を取るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院、家族との連絡を密にし、ADLの低下がなく、早期に退院できるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者の家族には、事業所のできる事と出来ない事の説明を十分にし、今後の方針を共有するようになっている。	重度化や終末期のケアについて事業所が対応できる事とできない事の指針を説明して、家族の納得を得ている。これまでに終末期ケアの対象者はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故発生時の対応にあたっては、マニュアルに沿って対応するよう職員全体に徹底するようになっているが、定期的な訓練は実施されていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難方法を職員全員が確認できているかどうかを確認する必要がある。地域の方々とは、非常時について話し合いを何度かしたことはある。	年2回、消防署の協力の下、避難訓練、避難経路の確認の指導を受けており、来春にはスプリンクラーの設置予定をしている。地元住民との協力体制の構築や備蓄については不十分である。	昼夜を通じて、様々な状況を想定し、年間を通じて避難訓練を繰り返し、防災への意識を高め、実効性のある災害対策計画を立てられることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しては原則敬語で対応するようになっている。スタッフ間の情報交換以外の場所で、利用者のプライバシーは口外しない。	利用者に接する時は誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心がけている。毎月一回、法人の合同研修会を年間スケジュールに沿って実地し、個人情報保護などに関する理解を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か行動を起こす時には、まず利用者に話しかけ承諾を得る。利用者本人が意思決定できる雰囲気をつくるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の過ごし方はスタッフ側の都合ではなく、利用者のペースを考え利用者本位を優先する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は利用者とスタッフで一緒に行う。その人の好みを聞き入れつつ、みだしなみができるよう支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はできる限りスタッフも一緒にテーブルを囲んで摂るようにしている。	昼食は配色サービスを利用している。利用者の中で出来る範囲で配膳、下膳の手伝いをしている。食事介助の必要な方が多いため、職員と一緒に食事は難しいが、出来る限り楽しい食事の雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は毎回チェックし、記録して申し送る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、自分でうがいができない利用者には、ガーゼ、歯間ブラシ等で介助する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人のパターンをスタッフで情報交換し、出来る限りトイレでの排泄を促す。	日々の経過表に排泄パターンを記録して、出来るだけトイレ排泄が出来るように時間帯を決めて、自立へ向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員の排便を確認する。便秘の方には自然は自然排便を促すための飲物、食品を工夫する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は個室だが、事業所内にある大浴場で温泉気分を味わっていただく機会もつくっている。	入浴は週2回を標準としているが、利用者の希望があれば、柔軟に応えるように支援している。月一回、気分転換もかねて、施設内の大浴場で入浴を楽しめる機会を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中に活動的に過ごしていただく工夫をし、夜間にゆっくりと入眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用している薬の効能を把握し、確実に服用できるようチェック表を作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、おやつ作り、食器洗い等、家事でできることは、スタッフと一緒にしていただくよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は、一日に一度は必ず外出し、歩行訓練をしている。また季節に応じて郊外へ花見などにも出掛けている。	天気の良い日には車の少ない周辺の散歩や神社、お寺などの外出を日課としている。四季折々に家族の協力も得ながら、花見や外食・温泉・買い物等、気分転換や五感の刺激の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は金銭の管理はスタッフがしているが、買い物に行く時には、利用者自ら支払いしてもらおうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人からも電話ができるよう施設内に公衆電話を設置している。またご家族や知人からの電話や手紙も快く取り次ぐようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間にはできるだけ季節の特徴のあるものを装飾したりしているが、温度は体感温度に個人差があるため、温度調節がむずかしい。	リビングは明るく、ゆったりしている。過度な掲示物とならないように配慮されている。掘りこたつのある畳の落ち着いた和風空間もあり、心地よい雰囲気を醸し出している。廊下には何時でも家族や馴染みの人との連絡ができる様に公衆電話も設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士、ゆっくり話せるスペースを設けたり、また利用者同士でトラブルやいざこざがあった場合には、席を変えたり工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の気に入ったなじみの物を置いてもらうなど、本人、家族の意見を十分に聞き、部屋づくりに努めている。	利用者の使い慣れた家具やテレビ、自作の置物等が持ち込まれて、本人が居心地よく過ごせる部屋作りに工夫されている。居室からベランダに自由に入出入りが出来、外気にあたって窓外の景色も楽しめている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ、利用者が自宅で過ごしているような雰囲気づくりや施設らしくない空間づくりに努めている。		